とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	株式会社　チャイルド・スマイル
園名	ちいはぐ・若葉ケヤキモール

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

・日当たりのよい当園の特徴を活かした「光」を感じ、分かりやすく興味・関心が持てる「音」を身体で表現する。

＜テーマの設定理由＞

・園庭がない為、外からの「光」が充分に感じられる場所（室内）で、心と身体の成長を促すことができるように、子どもたちの興味のある「音」を考えながら、ダンスを中心にした運動遊びを行った。
・実施にあたり保育士の指導だけではなく、専門の講師を招いて指導をして頂くことで、効果的に子どもたちの発達を促進できるよう試みた。月に２回、講師を招き、このプログラムを行っているが、その様子を普段の保育の中でも取り入れている。
・みんなで動物の真似をしたり、ダンスをしたりすることで、（小集団で）一つのことをする楽しさや共感力を養えるような機会を作った。

２．活動スケジュール

・隔週で特別講師を招き、異年齢の子どもたちが集中できる３０分という時間設定をした。
・プログラム開始前に、講師と最近の子どもたちの様子を共有し、どのような内容（子どもの発達に合わせた）にするか、子どもたちに分かりやすく、興味や関心を引くために保育士はどう動くかなどを話し合い、進めていった。
・特に子どもたちを間近で見ている担任同士が話し合う際には、前回の内容が難しかった、次回はこのようにしたい、など意見を出し合い、次回に繋げた。
・活動中に子どもたちの方から「〇〇がやりたい」という声があった場合には、なるべく意見を汲み取り、講師がアドリブでそれを取り入れて子どもたちのやる気を引き出した。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（準備した物）
・スピーカー　・スマートフォン（曲の再生）
（環境の設定）
・光は、園内にある大きな窓から入るので、動きながら光が浴びられるような位置の配慮を行った。また、飽きないように興味の引くことができる音・曲を選んだ。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・光や音に合わせて、身体や内面の発達を促進できるように身体を動かした。（また、０歳児が眠くなったり、ミルクを飲んだりして参加できない時にはカーテンで仕切り、プログラムが集中できるようにした。）
・講師の説明やダンスの内容が難しそうであると感じた子どもには、保育士が個別に関り、子どもの発達に合わせた言葉に言い換えたり、一緒に楽しんだりすることで、子どもたちが参加しやすい環境を作った。
・光が入るところで、子ども同士のいる位置で光が遮られないように場所を考えながら行った。
・ダンスはその時の子どもの状況や様子も鑑み、毎回同じようには行わなかった。また、雨で外に出られない日が続いているような時は、敢えて元気な曲を流し、身体をたくさん動かすような内容にした。

＜活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等＞

・異年齢なので、講師の話が理解できない時や集中できていないと感じる時には、保育士が個別に子どもに寄り添い、声掛けや対応をして、動きを引き出すようにした。
また、プログラムの内容が子どもたちに合っていないと感じる時には講師と話し、プログラムを変更することもあった。楽しかったと思われるプログラムは、その後も子どもたちの方から「○○やりたい」という声が出てきた。
・普段の保育の中でも自由に身体を動かせる機会を作り、自由に参加できるような環境を整えた。
・活動中は子ども同士で目が合うと笑顔になっている楽しそうな様子が見られ、コミュニケーションを取ることにもつながっていると感じた。
・保護者にも園だよりや降園時などで活動内容を共有し、活動の様子を伝えた。

ダンスをする前に、みんなでストレッチをします。
ダンスの前にストレッチを行う理由は、子どもたちの柔軟性を養い体を温めて怪我を防止する目的があります。

しっかりと身体を伸ばします。保育士も一緒にやることで、子どもたちが楽しく、スムーズに参加できるようにしています。

「だんごむしみたいに丸く小さくなろうね」
と具体的に分かりやすい声掛けをしています。

「手をぶらぶらしようね」と声掛けをし、手をほぐしていきます。
指先の使い方を知るためにも、指遊びのような動きも取り入れています。

音に合わせて、足と手をぶらぶらし、体幹を鍛えます。

音に合わせて、自由に恐竜の真似をして、子どもの表現の豊かさを引き出します。

リズム感を付けるために一定のリズム（動きで）クラップしたり、ハイタッチをし、繰り返し、動きに入れています。
瞬時に判断したものを表現するために動物や喜怒哀楽のポーズなどを曲に合わせて表現する練習をしています。

創造力、発想力を養うためにいくつかの条件を伝えて各々が自由に踊る、動く時間を作っています。
これに対して観察力を養うために、講師の真似をして動いてもらうことも行っています。

たくさんのジャンルの曲を聞いて知ってもらうために、童謡 Jpop、Kpop 等様々なジャンルの曲のニュアンスを変えて踊っています。リズム感を養い、曲に合わせて踊ることが楽しいと感じてもらうために 1～2 歳児でも口ずさめるようサビがキャッチーな楽曲を選んでいます。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・子どもたちの反応は分かりやすく、興味があれば進んで参加し、内容が合っていなかったり難しかったりすれば、なかなか興味を示さなかった。楽しみながら、子どもたちの発達を促すプログラムを作成したいと思った
・光が入りすぎても暗すぎても、子どもたちは集中できていなかった。目からや耳から入る情報は子どもたちの興味や集中力に大きく関わるのだと感じた。専門の講師を招くことで、違う視点や専門的な話を聞くことができるので子どもたちにとっても、保育士にとっても有益なことだと思った。
・子どもたちの心の豊かさは目では見えないものがほとんどだが、ダンスという同じ動きを再現する様子から、子どもたちが一人ひとり異なることを感じ、考えているのだと改めて思った。目で見える子どもたちの身体の動きだけでなく、身近な保育士として子どもたちの非認知能力を捉え、育てていきたい。この４か月で保育士が感じたことを大切に、子どもたちの成長を促していきたいと思う。今後、継続していく中で、子どもたちがどのように変化したのかを注視したい。